

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究プログラム推進のためのスペース、設備の確保	→一定員に対応した学生の研究スペース、設備の確保状況	B	B	B	B	A
2. 研究プログラム推進のための支援体制の確立	→支援体制の拡充の有無	A	B	B	A	A
3. 研究支援スタッフの適正配置(再配分・再配置)と拡充	→研究支援スタッフとカリキュラム・研究プログラムとの適合状況検討の有無	A	B	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 社会学研究科院生室において学生の研究スペースおよびパソコンなどの設備を確保した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 十分な研究スペースと必要なパソコンを整備できた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学教育アセスメント部会の開催をとおして、現状の点検を継続する。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ランチミーティングを各学期に数回ずつ開催し、投稿論文の執筆、英語でのプレゼンテーション、学会活動、学内・学外の奨学金や研究助成制度、学位論文の執筆などについて、助言が得られる機会を設けた。また、年度末に研究成果発表会を実施し、院生が研究上の助言を指導教員以外からも広く得ることができる機会を設けた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ランチ・ミーティングと研究成果発表会によって、大学院生が教員、上級生から学会発表、論文執筆、大学院生活について適切なアドバイスを得て、研究活動に活かすことができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究成果発表会を継続するとともに、ランチ・ミーティングのさらなる充実をはかる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 先端社会講義I・先端社会講義Jの2科目を設置し、院生にとって比較的身近に感じられるような若手の教員を配置して、論文執筆や英語でのプレゼンテーションへの助言やサポートを行なった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 先端社会講義I・先端社会講義Jの2科目を受講することで、大学院生は、論文執筆や英語でのプレゼンテーションへの助言、サポートを得ることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 先端社会講義I・先端社会講義Jの2科目を継続して開講する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆